

Title	現代文明について : 人間・教育・生産・消費・文化
Author(s)	高田, 宗次
Citation	デザイン理論. 1994, 33, p. 90-91
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/52866">https://doi.org/10.18910/52866</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 現代文明について

— 人間・教育・生産・消費・文化 —

高田宗治 / デザイン基礎研究所

### 1. はじめに

私は、将来の社会で色々な創造活動をしようとしている若者の教育をしており、また現代の文明社会の中でデザイン活動もしております。こうした仕事の中での最近の体験をいくつかお話して、それをつなぎ合わせていただいて、私が研究報告として云いたい事を推察していただければ幸いです。

### 2. 東京湾横断道路

今、神奈川県の川崎から千葉県の木更津まで東京湾を横断する道路が建設されています。海上の木更津寄りに人工島をつくり、川崎からそこまでは海底トンネルで、人工島から木更津へは橋を架ける工事です。この人工島の外枠となる杭打ちをする振動杭打機に関連して海上の現場を見せてもらってきました。

杭と云っても長さ37.5m の巾50cmの鉄の矢板140枚を直径22.3m の円筒形（セル）にしたものを海底に10m ほど打ち込んで中に土砂を入れる、これを48個並べて人工島の外枠にするのです。1個のセルを海底に打ち込む44台の振動杭打機と、それを働かせる周辺の巨大な景観は、一個の人間が蟻のようで、3m ほどもある杭打機は小粒のようでした。しかしこのビッグプロジェクトは人の英知による創造活動の一つとして、着々と進行していました。巨大な仕組みが小さい小さい人間の意のままに動いていました。

現場の技術者に、

「この道路の耐用年数は？」と聞くと、

「200年は使えます。その先はどうなるかわかりません。今、生きている人はその時は誰

もいません。永久に使えるものは人間には造れません。」との回答でした。

関西国際空港の埋立てに先立つ外枠の造成工事（護岸築造工事）も昭和63年に見せてもらえる機会がありましたが、同様に感動するものでした。

電化製品の場合は耐用年数は約10年です。自動車も同様でしょう。数百年の使用に耐える電化製品や自動車は現在の人間の能力では作れないでしょう。たとえ作れても価格は異常なものとなり、時代の発展による陳腐化もあり、このような製品を過剰品質と云っています。これが現代の文明の姿なのです。

### 3. 人工透析について

また、腎臓が働かなくなった人の血液を体の外へ出して洗浄して体に戻すと云う医療法があります。この人工透析が普及し初めて30年くらいでしょうか。それまで腎不全となった人は、なすすべもなく亡くなっていました。人口1,000人に1人のこの方達は、現代文明による医療によって生命を維持されています。1週間に3回、1回に約5時間の機械の拘束を強いられる生活です。この拘束時間以外は健常者と同じ生活をされていますが、透析専門の病院長から、

「体の面倒は見られるが、患者さんの気持ちの面倒は見られない。少しでも解決する方法はないだろうか。」と云う相談があつて始めた、患者さん、患者さんの家族、医師、看護婦さん、その他の医療関係者の声を結ぶ小冊子は10年ばかり続いています。

この小冊子を通じて苦難を克服して懸命に

生きている人々の体験や、医療現場で働く人々の知恵を知ることができ、現代文明の有用性を実感しています。

このようなことから感ずることは、発展途上である現代文明の未来に栄光のあることを願う他はないことです。

#### 4. 軽薄短小

こうした現代文明の特徴として軽薄短小が挙げられます。若者に聞かせる講義で現代文明論と云うのを担当していますが、そこで話したことを聞いていただきます。

私は1分間音楽を聞くために必要な物質の量を調べてみました。

-----

昔の鉄の針を使ったSP盤	.....	76.40 g
ステレオのLP	.....	3.33 g
録音可能なカセットテープ	.....	0.66 g
飛躍的に音質の良くなったCD	.....	0.43 g

-----

こんな結果を得ることができました。この逆の計算をすると1gの地球上の資源に0.8秒の音楽しか入れられなかった昭和初期から、現在は1gに2分間以上の音楽を記録できるまでに進歩し、その品質、音質も飛躍的に向上しています。

この面から考えると、地球の資源を現代ほど有効に活用している時代は過去にはないと思います。前述の人工透析の機械も、この10年で、ずいぶん小型で高性能のものになってきました。

飛行機を例にとって色々数字を使って計算もしてみました。ボーイング747と呼ばれる旅客機はライト兄弟の飛行機以後100年を待たず、その効率は軽薄短小の方向へ飛躍的に発展をとげて来ました。現代に生存する我々はこうした現代文明の産物によって生活を享受しています。

現代文明の発展は、更なる軽薄短小を進めなければならないでしょう。

#### 5. おわりに

この地球上に一人の人間として生まれ、私の場合は盲腸炎の手術を受けて生命を長らえ、科学技術を信奉する教育を受け、物を生産する仕事に従事し、自らも消費生活を行っています。次代を背負う若者の教育にも携わっています。いつの時代でも文化はその時代の文明によって生み出されてきました。こんな考えから副題を——人間・教育・生産・消費・文化——としました。江戸時代の文化は江戸時代の文明に支えられてきたのです。すばらしい文明がすばらしい文化を築きます。量より質、と云いますが、質は量があってはじめてありえます。

関西国際空港、東京湾横断道路、ボーイング747、人工透析のシステム、CD、その他の現代の人類のすぐれた産物のすべてが現代の芸術であると確信しています。

現代文明の未来を楽観視しているのか、との質問もありましたが、楽観視するでもなく、もちろん悲観視もしていません。おそらく、現代文明の今後は、過去も常にそうであったように前進があるのみではないでしょうか。その前進は人類一人一人の総和によって形成されて行くものと考えています。